

新技術 解説

ニラハウス栽培におけるネギネクロバネキノコバエの発消長と防除対策

群馬県農業技術センター 星 野 航 佑

はじめに

ネギネクロバネキノコバエ (*Bradysia odoriphaga*, 以下、ネギネ) は、群馬県において 2016 年 12 月にネギ圃場、2018 年 11 月にニラ圃場でそれぞれ確認された (群馬県農業技術センター, 2019)。ネギネは、近年、本県および埼玉県で確認された新奇の害虫であり (埼玉県病害虫防除所, 2016; 小俣, 2017; 群馬県農業技術センター, 2019)、特にニラでの報告は本県のみであるため、発消生態および効果的な防除対策についての知見が少ない。そこで、本県のネギネ発生地域におけるモニタリング調査、薬剤および熟による防除効果について検討し、ネギネ防除体系の確立を試みた。

I ニラにおけるネギネの被害

ネギネは、菌や有機質を好む他種キノコバエ類とは異なり、ネギ、ニンジンおよびニラ等の新鮮な植物を食害することが報告されている (ZHANG et al., 2015; 小俣, 2017; 群馬県農業技術センター, 2019)。ニラでは、ネギネ幼虫が地下茎葉部を食害することで、加害された株は生育不良になり、さらに食害が進行すると地上部の茎葉が萎れて枯れるなどの被害が発生する (図-1) (群馬



図-1 ハウスニラにおけるネギネの被害

Seasonal Occurrence and Control of *Bradysia odoriphaga* in House Cultivation of Chinese Chive. By Kosuke HOSHINO

(キーワード: ネギネクロバネキノコバエ, ニラ, 発消長, 防除)

県農業技術センター, 2019)。

II ニラのハウス栽培におけるネギネの発消長

ネギネの発消長については、2020 年 10 月～2021 年 8 月に調査を行った。群馬県伊勢崎市の施設ニラハウス 2 箇所 (圃場①: 175.5 m² (4.5 m × 39 m), ②: 216 m² (4.5 m × 48 m)) において、中央付近の地際 2 箇所に黄色粘着トラップ (Arysta LifeScience Corp., ホリバーイエロー) を設置し、捕殺される成虫数を調査した。その他、圃場内に地温測定用としてステンレスセンサー付き温度記録計 (株式会社ティアンドデイ, おんどとり TR-52i) を設置した。地温は、ネギネが寄生している付近の地下 6～9 cm (谷口ら, 2020) の位置にステンレス保護センサを取り付けて測定を行った。トラップの交換は、おおむね 1 週間間隔で行った。

2020 年 10 月～2021 年 8 月の調査結果について、圃場①の中央では、10 月 15 日に 18 頭が捕殺され、10 月 28 日まで発生量の増加が確認された。その後、12、2 月にごくわずかに発生が確認されたものの、11 月上旬～5 月中旬まで発生がほとんど確認されなかった。5 月 13 日より発生が増加し、5 月 20 日に 17 頭、27 日に 16 頭が捕殺された。その後、6 月 24 日に 23 頭、7 月 15 日に 13 頭が捕殺され、8 月 12 日にはいったん終息した。

10 月には、約 2 週間にわたって 1 つのピークが確認された。また、5 月～7 月には 3 つのピークが見られ、それぞれのピークは約 2 週間にわたって確認された。

圃場②の中央では、10 月、12 月および 1 月にごくわずかに発生が確認された。また、2 月における発生の立ち上がりは 2 月 10 日であった。2 月以降は、4 つのピークが見られ、それぞれのピークは約 3 週間にわたって確認された (図-2)。

今回の調査から、ニラハウスでは、ネギネ成虫が 2 月中旬から発生し、3～5 週間ごとに発生量のピークが現れる可能性が示唆された。ネギにおけるネギネ成虫の発生は、3 月中旬～12 月で確認されている (埼玉県農業技術研究センター, 2019)。今回、2 月中旬にネギネが発生した圃場の地温は 15℃ 前後であり、外気温 (気象庁